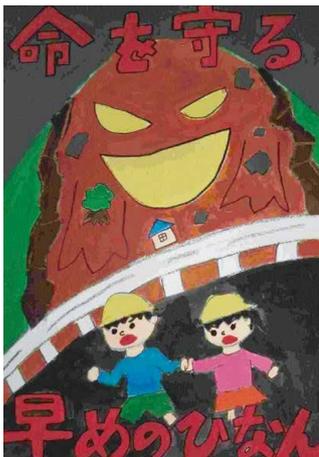


# ぐんまの砂防



碓氷川支川 かみはなだかざわ 上鼻高沢 土石流対策（高崎市）



「早めのひなん」  
高崎市立中室田小学校 5年 飯野 皓生さん



「命を守ろう」  
高崎市立矢中中学校 1年 横山 美月さん

## INDEX

- あいさつ ..... 1
- 群馬県治水砂防協会の活動 ..... 2
- 土砂災害防止に関する絵画・作文コンクール開催 ..... 4
- 群馬県における土砂災害対策事業の紹介 ..... 7
- 群馬県砂防ボランティア協会の活動 ..... 11

# あいさつ



会員の皆様におかれましては、日頃より、当協会の運営につきまして格別なご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、近年、気候変動などの影響により、気象災害が頻発化・激甚化しており、令和7年は8月に熊本県や鹿児島県で発生した線状降水帯に伴う「がけ崩れ」で2名の方が亡くなるなど、37の都道府県で578件の土砂災害が発生し、死者2名、人家被害236戸と、かけがえのない生命や財産が失われました。幸い群馬県においては、大きな災害はありませんでしたが、令和元年東日本台風で大きな被害を受けており、同じような土砂災害がいつ群馬県で発生するか分かりませんので、「ハード」と「ソフト」が一体となった土砂災害対策を、なお一層推進することが求められています。

群馬県では、今年度から、新たな「ぐんま・県土整備プラン2025」及び「群馬県土砂災害対策推進計画2025」がスタートしました。ハード対策として、これまでの人家等を保全する対策に加え、能登半島地震の教訓を踏まえ、孤立集落の発生を未然に防ぐため、迂回路がない道路の保全にも重点的に取り組んでいくこととし、前プランでは20箇所であった新規の砂防事業が、48箇所へと大幅に増えています。また、「逃げ遅れゼロ」に向けたソフト対策として、将来を担う小中学生を対象に「主体的に避難する力を育む防災教育の支援」を新たな取組として位置づけ、防災意識の醸成を図っていくこととしています。

土砂災害から県民の生命や財産を守るため、防災・減災対策の重要性がますます高まる中で、当協会といたしましては、治水砂防事業の一層の推進が図られるよう、これからも国や県に対して、砂防関係事業予算の確保を強く要望し、「災害に強い県土づくり」に寄与してまいりますので、今後とも、格別のご指導、ご協力を賜りますようお願いいたします。

群馬県治水砂防協会会長 安中市長 岩井 均

## ●群馬県治水砂防協会 令和7年度の主な活動

| 年月日          | 活動内容                                  |
|--------------|---------------------------------------|
| 令和7年5月9日     | 群馬県治水砂防協会三役会・会計監査                     |
| 令和7年5月29日    | 全国治水砂防協会通常総会                          |
| 令和7年6月1～30日  | 土砂災害防止月間にあわせ<br>ぐんま大雨時デジタル避難訓練の配信(協賛) |
| 令和7年7月17日    | 群馬県治水砂防協会通常総会                         |
| 令和7年8月1日     | 全国治水砂防協会<br>第12回土砂災害対策実務者講習会          |
| 令和7年9月3日     | 国土交通省砂防部長への要望活動                       |
| 令和7年10月21日   | 群馬県治水砂防協会現地視察研修                       |
| 令和7年10月25日   | 土砂災害に関する絵画・作文コンクール表彰式                 |
| 令和7年11月6～7日  | 全国治水砂防協会<br>関東甲地区協議会通常総会・支部長会議        |
| 令和7年11月13日   | 全国治水砂防促進大会<br>県選出国会議員への要望活動           |
| 令和8年2月17～18日 | 全国治水砂防協会<br>第66回砂防および地すべり防止講習会        |
| 令和8年2月       | 「ぐんまの砂防」Vol.23発行                      |

## ●群馬県治水砂防協会役員名簿(令和7年度)

| 役職名  | 現職名    | 氏名     |
|------|--------|--------|
| 名誉会長 |        | 関根 園 男 |
| 会 長  | 安中市長   | 岩井 均   |
| 副会長  | 渋川市長   | 星名 建市  |
| 副会長  | 桐生市長   | 荒木 恵司  |
| 副会長  | 嬭恋村長   | 熊川 栄   |
| 監 事  | 県議会議員  | 金井 康夫  |
| 監 事  | みなかみ町長 | 阿部 賢一  |
| 委 員  | 前橋市長   | 小川 晶   |
| 委 員  | 高崎市長   | 富岡 賢治  |
| 委 員  | 沼田市長   | 星野 稔   |
| 委 員  | 藤岡市長   | 新井 雅博  |
| 委 員  | 富岡市長   | 榎本 義法  |
| 委 員  | みどり市長  | 須藤 昭男  |
| 委 員  | 神流町長   | 坂本 英夫  |
| 委 員  | 東吾妻町長  | 中澤 恒喜  |
| 委 員  | 川場村長   | 外山 京太郎 |

# 群馬県治水砂防協会の活動



## 全国治水砂防協会「第89回通常総会」への出席

令和7年5月29日に東京都千代田区の砂防会館別館シェーンバッハ・サボーにおいて、全国治水砂防協会第89回通常総会が開催されました。全国から会員等1,000名超が出席し、本県からは、岩井会長、熊川副会長、阿部監事をはじめ会員市町村長等17名が出席しました。

開会に先立ち、平田東京大学名誉教授による「南海トラフ地震災害に備える」と題した特別講演が行われました。

総会では、令和6年度事業報告及び決算審議並びに公益目的支出計画実施報告、令和7年度事業計画報告及び収支予算報告、役員等改選審議が行われ、審議案件は原案どおり全会一致で承認され、その後、国土交通省草野砂防部長から『いのち』と『くらし』と『みどり』を守る砂防』と題した講演が行われました。

茂原前副会長が、砂防事業の推進への顕著な功績により、同協会の功労者表彰を受賞しました。



【会場の様子】



## 群馬県治水砂防協会通常総会及び講演会の開催

令和7年7月17日に群馬県商工連会館において、令和7年度通常総会が会員市町村長等26名の出席のもと開催されました。津久井副知事、群馬県議会伊藤副議長、国土交通省國友砂防部長、(一社)全国治水砂防協会大野理事長にご臨席を賜り、ご祝辞をいただきました。

総会では、令和6年度事業報告・決算報告、令和7年度事業計画案・予算案等が原案どおり可決・承認されました。

通常総会終了後、国土交通省國友砂防部長から「砂防行政に関する話題提供」と題し、また、(一社)全国治水砂防協会大野理事長から「砂防の話ー土砂災害を防ぐためにー」と題してご講演いただき、会員市町村長ほか多くの市町村職員等が聴講しました。



【岩井会長のあいさつ】



【國友砂防部長の講演】

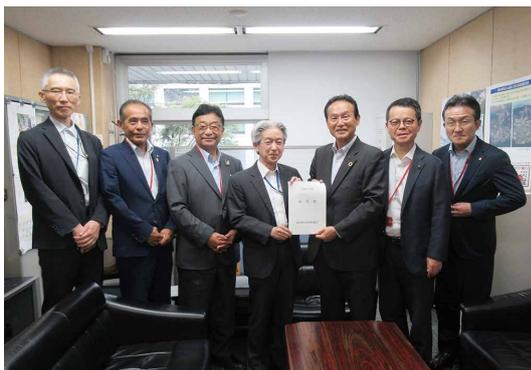


【大野理事長の講演】



## 国土交通省砂防部長への要望活動の実施

令和7年9月3日に国土交通省において、岩井会長、荒木副会長、金井監事、阿部監事、宮前顧問が國友砂防部長不在のため、椎葉砂防計画課長、綱川保全課長へ要望活動を行いました。



【要望書提出】



【意見交換の様子】



## 群馬県治水砂防協会現地視察研修の実施

令和7年10月21日に岩井会長、熊川副会長をはじめ市町村及び県の土木事務所等の職員17名が参加し、砂防に関する知識及び技術の向上、砂防事業の促進を図ることを目的に、長野県の「栃平沢」土石流対策工事現場及び「小松原」地すべり対策工事現場の視察研修を実施しました。

当日は長野県犀川砂防事務所の土屋所長、長野県土尻川砂防事務所の玉川所長はじめ各事務所の皆様にご説明いただきながら、実際に現場を見ることにより、砂防事業の重要性を再認識しました。「栃平沢」の砂防堰堤は平成19年に高さ20mまでの暫定形で完成しましたが、その後、長野県内で豪雨による土石流災害等、甚大な被害が生じる災害が頻発したことから、高さ28mまで嵩上げを行う工事を行っています。「小松原」は令和3年7月6日に大規模な地すべりが発生し、現在、新たな地すべりへも対応しながら対策工事を実施している現場です。



【栃平沢土石流対策工事】



【小松原地すべり対策工事】



【参加者】



## 全国治水砂防協会関東甲地区協議会通常総会への出席

令和7年11月6日～7日に千葉県鴨川市の鴨川グランドホテルにおいて、令和7年度全国治水砂防協会関東甲地区協議会通常総会が開催され、佐々木常任幹事が出席しました。初日の総会では、令和6年度事業報告・歳入歳出決算報告、令和7年度事業計画案・歳入歳出予算案が原案どおり可決・承認されました。

総会後に開催された会長(支部長)会議では、国土交通省國友砂防部長と(一社)全国治水砂防協会大野理事長から講演が行われました。

翌日は、鴨川市内の大山千枚田、南房総市内の荒川砂防工事現場等を視察しました。



【会場の様子】



【荒川砂防工事現場】



## 「全国治水砂防促進大会」への参加及び要望活動の実施

令和7年11月13日に砂防会館別館シェーンバッハ・サボーにおいて、「全国治水砂防促進大会」が開催されました。全国から会員等約1,650名が出席し、本県からは岩井会長をはじめ市町村長等18名が参加しました。

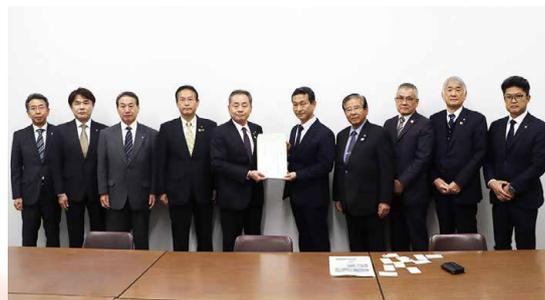
開会に先立ち、山梨県富士山科学研究所 所長 藤井東京大学名誉教授による「日本の火山防災について」と題した特別講演が行われました。

促進大会では、国土交通省國友砂防部長から「『いのち』と『くらし』と『なりわい』を守る砂防」と題した講演が行われ、その後、石飛雲南市長(島根県)と中村小谷村長(長野県)から意見発表が行われました。最後に、大会提言が満場一致で採択されました。

大会終了後、岩井会長が代表要望団として財務省へ、熊川副会長をはじめ、町村長等が県選出国會議員へ要望活動を行いました。



【会場の様子】



【財務省へ代表要望活動】



【要望活動(中央に清水参議院議員)】

# 土砂災害防止に関する絵画・作文コンクール開催

群馬県と群馬県治水砂防協会は共催で、毎年6月の「土砂災害防止月間」に、土砂災害に対する理解と関心を深めるために、小・中学生の皆さんから「土砂災害防止に関する絵画・作文」を募集しています。

令和7年度は、絵画45点、作文57点の応募があり13作品が入賞しました。



## 群馬県審査受賞者(敬称略)

※個人情報の関係で掲載していない方もいます。

### 絵画の部

|     |      |       |               |    |
|-----|------|-------|---------------|----|
| 小学生 | 優秀賞  | 飯野 皓生 | 高崎市立中室田小学校    | 5年 |
|     | 奨励賞  | 赤塚 優一 | ぐんま国際アカデミー初等部 | 4年 |
| 中学生 | 最優秀賞 | 横山 美月 | 高崎市立矢中中学校     | 1年 |
|     | 優秀賞  | 星野 芽依 | 伊勢崎市立殖蓮中学校    | 2年 |
|     | 奨励賞  | 西澤 優羽 | 高崎市立吉井中央中学校   | 1年 |
|     |      |       |               | 1年 |

### 作文の部

|     |      |       |             |    |
|-----|------|-------|-------------|----|
| 小学生 | 最優秀賞 | 垣内 優翔 | みどり市立笠懸西小学校 | 3年 |
|     | 優秀賞  | 中島 碧海 | みどり市立笠懸西小学校 | 2年 |
| 中学生 | 最優秀賞 | 水江 智哉 | 渋川市立渋川中学校   | 2年 |
|     | 優秀賞  | 浅田 宇琉 | 渋川市立渋川中学校   | 1年 |
|     | 奨励賞  | 明田 空大 | 渋川市立渋川中学校   | 1年 |
|     | 奨励賞  | 平形 玲菜 | 渋川市立渋川中学校   | 1年 |
|     | 奨励賞  | 奥田 優歌 | 渋川市立渋川中学校   | 1年 |



※各受賞作品につきましては、群馬県ホームページの砂防課のページに掲載していますので、是非ご覧下さい。

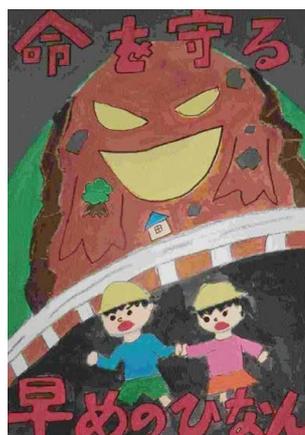
<https://www.pref.gunma.jp/page/729932.html>



## 絵画部門

### 【小学生】

#### 優秀賞(群馬県治水砂防協会長賞) 受賞作品



「早めのひなん」

高崎市立中室田小学校 5年 飯野 皓生 さん

#### 奨励賞(群馬県砂防課長賞) 受賞作品



「大事な命 守る砂防」

ぐんま国際アカデミー初等部 4年  
赤塚 優一 さん

### 【中学生】

#### 最優秀賞(群馬県知事賞) 受賞作品



「命を守ろう」

高崎市立矢中中学校 1年 横山 美月 さん

#### 優秀賞(群馬県治水砂防協会長賞) 受賞作品



「日頃の準備が命を守る」

伊勢崎市立殖蓮中学校 2年  
星野 芽依 さん

#### 奨励賞(群馬県砂防課長賞) 受賞作品



「命を守る早めの避難」

高崎市立吉井中央中学校 1年  
西澤 優羽 さん

**最優秀賞(群馬県知事賞) 「土砂災害から学ぶこと」**

みどり市立笠懸西小学校 3年 垣内 優翔 さん

ぼくは、テレビを見ている時に、土砂災害のニュースを見かけることがあります。そこには、山がけずられてボコボコになっていたり、家がたくさんの土や木などでおしつぶされているえいぞうがながれています。ぼくの家は土砂にまきこまれたことがないから分からないけど、もし自分の家の近くで同じようなことがおこったら、とてもこわいだろうし、山の近くはあぶないと思いました。

ぼくは、お母さんから、今住んでいる家の話を聞いたことがあります。

この家をたてる時、ぼくのお父さんはハザードマップという災害をよそくする地図を使っていろいろ調べて、土砂災害はもちろん、こう水などのひがいなどにも合わないような場所をさがしたそうです。だから、ぼくの家のみわりには山も川もないと聞きました。

いろいろな災害で家がなくなってしまうのは、とてもかなしいし、大へんなことだと思います。だから、ぼくも大きくなって自分の家をたてる時には、山の近くに家をたてないほうがいいと思うし、お父さんみたいにハザードマップで調べたり、お父さんにそうだんしたりしながら家をたてたいと思います。

それから、土砂災害だけではなく、他の災害がおきた時もまずは「にげる」ことが大切だと思います。学校でも、いろいろな場面でのひなん訓練をやっています。なので、これからは今までいじょうに一生けんめい取り組みたいと思いました。

**最優秀賞(群馬県知事賞) 「学んで備えて命を守る」**

渋川市立渋川中学校 2年 水江 智哉 さん

ぼくは朝、新聞を読むことが日課です。なぜならば群馬県のことだけでなく、日本や世界中のニュースを知ることができるし、気になったことは、後でもう一度読み返しができるからです。最近新聞を読んでいると多いのが、災害のニュースです。地球温暖化による異常気象で、強力な台風や線状降水帯、ゲリラ豪雨での甚大な被害が起きている所があります。自分の住んでいる町で起きていないと、どうしても他人事になりがちですが、実際にはどこでもおこりうると考えたほうが良い時代になったのではないかと思います。

ぼくの住む渋川市も周囲を山で囲まれ、大きな川も流れています。なので豪雨による土砂災害が発生する恐れが十分にあると考えました。テレビで他県で起きた土砂災害の映像を見ると、想像を絶する様子に、ただただ驚くばかりでした。もし、渋川市でも大きな土砂災害が起きたらと思うと、しっかりと土砂災害のことを知り、どうやって身を守るかを学ぼうと決意しました。

調べてびっくりしたのは、ぼくの家から約一キロの所でも、昭和二十二年の九月、カスリーン台風

よる山津波で、家や納屋などが埋まり、二名の死者が出たことがわかりました。まさかといひ言いがなかった。

では、土砂災害とはどういうことか。それは山や崖が崩れ、その崩れた土砂が雨水や川の水と混じり、流れてきたりすることによって、建物や田畑を押し流す災害で、大雨だけでなく、火山の噴火や地震などもきっかけで発生します。大きく分けると、土石流、地すべり、崖崩れに分類できます。テレビや新聞で見かけるのは、圧倒的に土石流と崖崩れが多いのではないかと思います。

ぼくは実際にカスリーン台風で起きた山津波の現場へ徒歩で行きました。すると、正に土砂災害のパンフレットに書いてある絵のような光景が広がっていた。山の斜面は急で、谷のようになっている場所には川が流れ、どう見ても水が集まりやすそうな場所でした。山津波はきっとあっという間に流れてきたと思う。今、現場の下流には多くの家が建っています。もし、同じことが起きれば死者二名どころではなかったと思った。ぼくの亡くなった曾祖父は、この現場から五百メートルくらいの所に住んでいました。生きていたら、この災害の話が聞けたかと思うと、とても残念な気持ちになり、この時ぼくは、語り継ぐことの重要性が身に染みて分かりました。

恐ろしい土砂災害から命を守るには、何でもない日にこそ、備えておくことが大切です。家の近所に崖や沢、川やため池、土砂災害警戒区域の看板がありませんか。日頃から自分の目で確認し、いざという時の避難経路を考えておくといいと思います。そうすることによって被害を最小限に抑えることができます。ハザードマップも役立つでしょう。

そして、家族みんなで防災のことを話し合い、家族が離ればなれになっても連絡できるように、連絡先やどこの避難先へ行くかをあらかじめ決めておくこと。また、非常用持ち出し袋の中身も、家族で必要なものがあるかもしれないので、各家庭で中身や何を持ち出すか、役割分担を決めることも重要です。

雨が降り始めたら、土砂災害警戒情報に注意し、テレビやスマートフォンを活用し、気象情報をチェックしよう。避難する際は、近所のお年寄りや障害のある人たちに積極的に声をかけ、早めに避難すると良いと思いました。特に夜間は暗く足元が悪いので注意が必要です。避難指示が出ていなくても、危険を感じたらすぐ避難しましょう。迷っているより行動です。

今年の夏休みに仙台へ旅行へ行きました。ホテルをチェックアウトするときに、スマートフォンが大きな音をたて、津波警報のお知らせが来ました。ぼくはとてもびっくりしましたが、ホテルの従業員の人が優しい声で、「ここは内陸なので大丈夫ですよ。でも、観光で海の方には行かないようにして下さい。」と案内してくださいました。その言葉を聞いて、ぼくはとても心強かったです。知らない土地に来て、まさか津波警報が出るとは思っていませんでした。渋川市も、観光で他県から多くの人が訪れていますが、災害が予想される時は、ぼくたち渋川の人たちが、避難誘導や避難所、危険なところの案内が積極的にできたらいいなと思いました。

災害は二度と同じ災害は起こりません。危険がせまったときに自分の命を守るのに大切なことは『早めの避難です。』あの時、こうしておけば良かったと後悔しない為に。

尊い命を失わないように。

# 群馬県における土砂災害対策事業の紹介



## 群馬県土砂災害対策推進計画2025・群馬県砂防関係施設長寿命化計画2022

### 群馬県土砂災害対策推進計画2025

- (1) 計画概要 「土砂災害による死者ゼロ」を目指し、ハード・ソフトが一体となった土砂災害対策を効率的かつ効果的に推進します。
- (2) 計画期間 令和7年度から令和16年度の10年間
- (3) 重点施策
  - ①ハード対策(土砂災害リスクを軽減させる防災インフラ整備)
    - 人家等に著しい被害が生じるおそれのある区域等を保全する施設整備
    - 多くの人家等に被害が生じるおそれのある区域を保全する施設整備
    - 迂回路のない道路を保全する施設整備(孤立対策)
    - 重要交通網(緊急輸送道路、鉄道)を保全する施設整備
    - 土砂・洪水氾濫のおそれのある流域の抽出と対策検討(流域治水)
  - ②ソフト対策(土砂災害からの「逃げ遅れゼロ」に向けた避難行動の促進)
    - 土砂災害警戒区域等の見直し
    - 主体的に避難する力を育む防災教育の支援と防災意識醸成のための広報
    - 土砂災害警戒情報の発信
    - 住民主体の防災マップ作成や避難訓練の支援
    - 土砂災害警戒区域等を周知する標識の設置

### 群馬県砂防関係施設長寿命化計画2022

- (1) 計画概要 土砂災害から県民の生命と財産を守るため、既存の砂防関係施設の必要な機能を長期にわたって安全に使用し続けていくことを目的に、維持管理・更新に要するトータルコストの縮減と予算の平準化により老朽化対策を計画的に行います。
- (2) 計画期間 令和4年度から令和53年度の50年間  
維持管理計画 令和4年度から令和11年度の8年間

砂防関係施設の現状(令和4年3月)

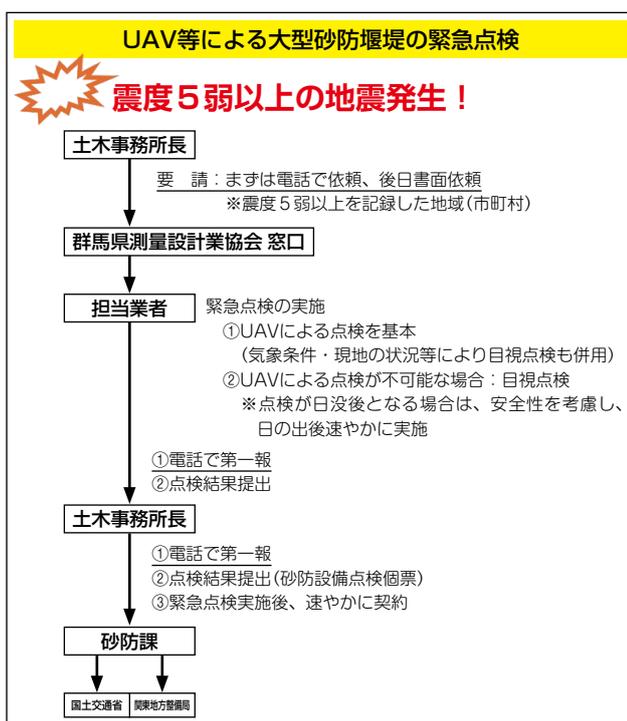
| 砂防関係施設     | 施設数   | 健全度A  | 健全度B  | 健全度C |
|------------|-------|-------|-------|------|
| 砂防設備       | 2,883 | 1,075 | 1,681 | 130  |
| 急傾斜地崩壊防止施設 | 639   | 255   | 350   | 34   |
| 地すべり防止施設   | 68    | 19    | 13    | 36   |
| 雪崩防止施設     | 6     | 2     | 3     | 1    |
| 合計         | 3,596 | 1,351 | 2,047 | 201  |

健全度A：対策不要 健全度B：経過観察 健全度C：要対策

本計画に基づき、巡視や定期点検で施設の変状把握を行うとともに、健全度C(要対策)の対策を進め、令和7年度末までに106箇所対策が完了しました。

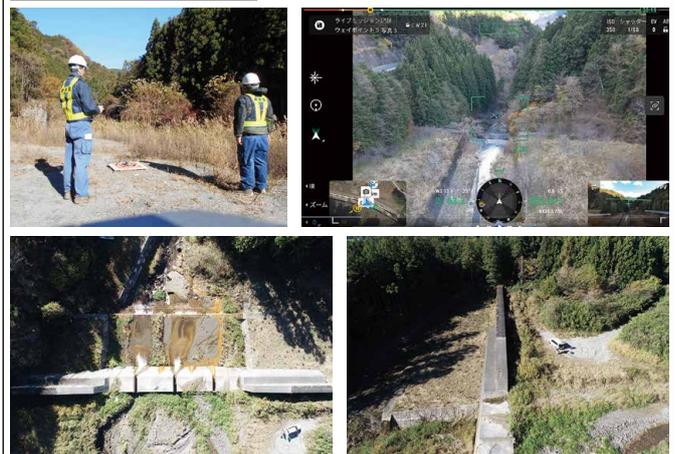


## (一社)群馬県測量設計業協会との連携による「UAVを活用した地震発生時における大型砂防堰堤の緊急点検」の運用開始について



これまで、震度5弱以上の地震が発生した際には、高さ15m以上の大型砂防堰堤を管理する土木事務所の職員が緊急点検を行い、被災状況や機能低下等を確認していました。昨年度、群馬県と「災害協定」を締結している一般社団法人群馬県測量設計業協会と連携し、UAVを活用した施設点検の実証実験を行った結果、安全性等が確認されたことから、今後、震度5弱以上の地震が発生した際は、協会に緊急点検を要請することとなりました。(令和7年8月18日から運用開始)

### UAVによる点検状況



# 砂防施設の効果事例

地区名：<sup>なかしま</sup>中島地区

発生箇所：安中市下間仁田地内

保全対象：人家12戸

状況：令和7年6月26日の大雨によりがけ崩れが発生しましたが、擁壁が土砂を捕捉し、家屋被害等を未然に防止しました。

がけ崩れ発生後



復旧状況



溪流名：渡良瀬川支川<sup>ひがしつぎいしざわ</sup>東次石沢

発生箇所：みどり市大間々町小平地先

保全対象：人家2戸、県道小平塩原線、水道施設

状況：令和7年9月11日の大雨により土石流が発生しましたが、砂防えん堤が土石流と流木を捕捉し、下流地区への被害を未然に防止しました。

土石流発生後



土石流・流木捕捉状況



## 令和7年度に完成した主な施設

### 通常砂防事業 『<sup>おおあしざわ</sup>大声沢』(みなかみ町藤原地先)

全体事業費：283百万円

保全対象：人家10戸、避難所、県道沼田水上線等

事業概要：砂防えん堤工(透過型) H=6.0m L=80.0m、溪流保全工 L=17.0m



着工前



完成

### 急傾斜地崩壊対策事業 『<sup>しおのさわ</sup>塩之沢9地区』(上野村檜原地内)

全体事業費：292百万円

保全対象：避難所

事業概要：崩壊土砂防護柵工 L=63.0m、コンクリート吹付工 A=99.6㎡



着工前



完成

# 土砂災害警戒区域等の3巡目見直し

土砂災害が発生するおそれのある箇所について、砂防基礎調査結果に基づき、住民の生命又は身体に危害が生ずるおそれのある範囲を明らかにし、警戒避難体制の整備促進や一定の開発行為の制限、建築物の構造規制等を行うため、土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域を指定しています。

群馬県では、平成26年10月に初回の指定が完了し、その後概ね5年毎に区域の見直しを行っています。

令和3年度からは、3巡目見直しとして、地形改変箇所等における既指定区域の見直しを進めるとともに、高精度な地形図を活用することで、これまで抽出できなかった土砂災害が発生するおそれのある箇所を新たに抽出する新規箇所調査を実施しています。

◆ 県内の土砂災害警戒区域数：9,083箇所（うち特別警戒区域：8,088箇所） [令和7年12月末現在]

群馬県が提供する統合型地理情報システム「マッピングぐんま」にて、土砂災害警戒区域等を地図上で確認することができます。

従来の地形図 → 高精度な地形図

高精度な地形図を用いた区域抽出

マッピングぐんま

# 「住民主体の土砂災害警戒避難体制構築」の推進

地域住民が自らの意思で適切な避難行動がとれるよう、住民懇談会を開催し、その地域独自の自主避難計画(自主避難ルール・防災マップ)を作成するとともに、その計画を基にした避難訓練の支援をしています

○住民懇談会の開催  
地図を囲み、地域の人だけが知っている予兆現象等の情報を地図に集約し、住民自らが地域独自の防災マップを作成します。

○地域独自の自主避難計画とその周知  
数回の住民懇談会を通して、地域独自の自主避難計画を完成させ、警戒避難体制の仕組みを地域住民全員に周知します。

○避難訓練の実施  
完成した自主避難計画を用いて、実際に避難訓練を行い、連絡体制の確認などを行います。

# 土砂災害警戒区域内の「要配慮者利用施設」への避難訓練支援

「土砂災害防止法」では、要配慮者利用施設の避難の実効性確保のため、避難確保計画の作成及び避難訓練の実施、市町村長への訓練結果の報告が義務付けられています。群馬県では、令和4年度に施設での避難確保計画の作成率100%を達成し、現在は施設利用者の円滑かつ迅速な避難確保のための避難訓練支援を実施しています。

令和7年度は、みどり市の有料老人ホームにおいて支援を実施しました。

～これまでの実践支援事例～

情報収集・伝達(共有)  
防災体制の確認

避難訓練(実践型)

避難訓練の振り返り



## “主体的に避難する力を育む” 防災教育の支援

群馬県では、土砂災害からの「逃げ遅れゼロ」を目指し、県教育委員会や学校等と連携し、小さい頃から主体的に避難する力を育む防災教育の推進を支援しています。学校現場では、教員の多忙化や防災教育の指導方法がわからない等の課題があることから、多忙な学校現場でも教員が負担なく指導できることを目的に、小学校高学年を対象とした防災教材を作成し、令和7年8月から県ホームページで公開し、県内各小学校に配布しました。今後は、低学年用教材の作成に着手するとともに、教材の普及と継続的な防災教育の推進に向け取り組んでいきます。



〇防災教育教材  
初めての防災教育でも教員が少ない負担で取り組める教材構成とした。  
(授業用スライド・ワークシート・学習指導案・副読本など)



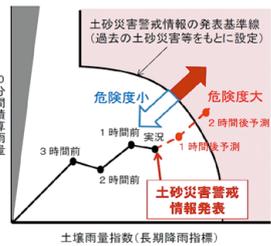
〇教材の普及に向けた検討の実施  
教育委員会等の関係機関と連携して教材の普及方法等を検討し、教員向け研修会での紹介や校長会での働きかけを行い、普及に向け取り組んでいる。



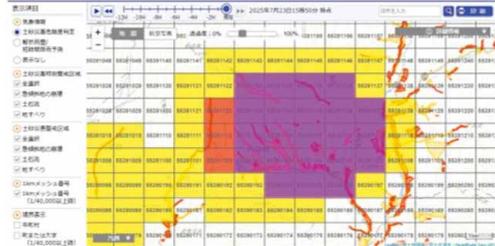
## 土砂災害警戒情報発表基準の見直し

土砂災害警戒情報は、大雨による土砂災害発生の危険度が高まったとき、市町村長が防災活動や住民等への避難指示等の災害応急対応を適時適切に行えるよう支援することや、住民の自主避難の判断等にも利用できることを目的として、市町村単位で発表される防災気象情報です。群馬県では、平成19年6月から土砂災害警戒情報の運用を開始しており、過去の降雨状況や土砂災害の発生状況等を勘案し、有効性や運用方法等を継続的に検証して、適宜改善を図っています。

令和7年度は、現行の土砂災害警戒情報の精度向上を図るため、最新の高解像度化された降雨データ及び土砂災害データを用いて、発表基準線や除外メッシュの見直しを実施しました。見直しにあたり、群馬大学、国土交通省国土技術政策総合研究所、前橋地方気象台などの専門家に加えて自治体の代表として岩井均安中市長、阿部賢一みなかみ町長に参加いただき土砂災害警戒情報見直し検討委員会を設置し、防災や気象の専門的知見や利用者の立場から幅広く意見を得て、新たな発表基準の設定に取り組みました。令和8年出水期から新基準での運用を予定しています。



土砂災害警戒情報の発表基準  
土壌雨量指数(長期降雨指標)



警戒レベルを着色表示



検討委員会の様子



## ぐんま大雨時デジタル避難訓練の配信

### ◆「ぐんま大雨時デジタル避難訓練」とは

群馬県では、県民の防災意識向上を目的に、県公式LINEアカウント「群馬県デジタル窓口」を活用し、スマートフォンを使って、大雨や台風時に必要な情報を収集し、避難に関する一連の行動を確認できる「ぐんま大雨時デジタル避難訓練」を配信しています。

### ◆ 令和7年度の実施内容

- 日本語に不慣れな県内在住の外国籍の方にも訓練に参加いただけるよう“やさしい日本語版”を追加し機能を拡充(令和7年6月～)
- “通常版”“家族で学ぼう版”も引き続き配信

### ◆ 参加状況

- R4.6月～ 29万回超(R7.12月末時点)

LINEでの参加はこちら



ブラウザでの参加はこちら





# 群馬県砂防ボランティア協会の活動

群馬県砂防ボランティア協会(山口修会長)は、県職員OB約100名の会員で構成され、土砂災害から県民の生命や財産を守るため、砂防関係施設の点検等のボランティア活動を行っています。

令和7年10月29日、10月31日、11月7日に県内各地域の砂防関係施設の定期点検等を実施しました。この点検結果に基づき各土木事務所で対策を行いました。

## 【定期点検の様子】



【東毛班(7名参加)】



【西毛班(4名参加)】



【吾妻班(7名参加)】



【利根沼田班(9名参加)】

## あとがき

「ぐんまの砂防」Vol.23をお届けいたします。

本誌は平成12年度に創刊し、治水砂防に関する事業の普及促進につながる様々な取り組みを掲載してきました。

今号では、当協会の活動、土砂災害防止に関する絵画・作文コンクール、群馬県の土砂災害対策事業、砂防ボランティア協会の活動をご紹介します。特に、土砂災害防止に関する絵画・作文コンクールでは、各作品とも小中学生の皆さんの土砂災害防止への意識の高さを伺うことができました。災害に備えた、一人ひとりの意識と行動が防災・減災に大きく関わるのだということを、子どもたちが敏感に感じ取り「自分ごと」として受け止め、実践しようとしていることがわかりました。改めてご応募くださいました皆さんに感謝いたします。

各活動にご協力くださいました会員市町村はじめ関係の皆さまに、この場をお借りして深く感謝いたします。

これからも充実した「ぐんまの砂防」の編集・発行に努めていきますので、今後とも皆さまのご協力をお願いいたします。

編集・発行 ■ 群馬県治水砂防協会(群馬県県土整備部砂防課内)

〒371-8570 群馬県前橋市大手町一丁目1番1号

TEL 027-226-3631